



日本計算機統計学会

Japanese Society of Computational Statistics

NEWS LETTER

〒101-0061 東京都千代田区神田神保町3-6 龍東書院ビル5F (公財)統計情報研究開発センター内
Tel./Fax: 03-3254-7580 E-mail: office@jscs.jp URL: http://www.jscs.jp/

No. 76
2022. 10. 14



第 36 回シンポジウム・チュートリアルのお知らせ

第 36 回シンポジウム実行委員長
東海大学 山本 義郎

・第 36 回シンポジウム

日時: 2022 年 11 月 26 日(土)～ 11 月 27 日(日)

場所: 富山国際会議場(富山県富山市)

・チュートリアル「データ構造を考える」

日時: 11 月 25 日(金)13:30～15:30

場所: 富山県民会館

詳細: <https://jscs.jp/conf/sympo36/>

日本計算機統計学会第 36 回シンポジウムを、2022 年 11 月 26 日(土)～11 月 27 日(日)に富山国際会議場(富山県富山市)にて開催させていただくことになりました。

開催地の富山市は「SDGs 未来都市」に選定されており、歩いて暮らせるコンパクトなまちであり、富山湾からの豊富な魚介類を使った郷土料理、寿司などがリーズナブルな値段で楽しめます。このような魅力あふれる富山で、計算機統計学における気鋭の皆様が一同に会し、活発な議論のできる「場」を提供できればと考えております。11 月 26 日の夜には、岩瀬の「磯料理 松月」におきまして懇親会を予定しています。富山湾の海の幸と地酒を準備しておりますので、交流を深めていただければ幸いです。

第 36 回シンポジウムでは、特別講演として東海大学体育学部の山田洋教授に、「スポーツバイオメカニクス」に関するお話をいただきます。この特別講演に合わせて、スポーツデータサイエンスに関する特別セッションも企画しております。

また、本シンポジウムに先立ち、11 月 25 日(金)に富山県民会館でチュートリアル「データ構造を考える」(講師:株式会社スーザック 横堀 真様)を開催いたしますのでこちらも是非ご参加ください。このチュートリアルに関連して、シンポジウムにおいても特別セッション「企業におけるデータ事例の紹介(仮)」を企画しております。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の収束は見通せませんが、シンポジウムを現地開催とし、補助的にオンライン会

議システムを用いる、ハイブリッド会議として開催いたします。充実したシンポジウムとなるよう準備しておりますので、多くの皆様のご参加・ご講演を心よりお待ちしております。

お問い合わせ先:

日本計算機統計学会 第 36 回シンポジウム 事務局
〒259-1292 神奈川県平塚市北金目 4-1-1

東海大学理学部

山本 義郎

E-mail: sympo36@jscs.jp

※なるべく E-mail でお問合せください。

第 36 回大会の報告

第 36 回大会実行委員長
神奈川大学 兵頭 昌

日本計算機統計学会第 36 回大会は、2022 年 5 月 21 日(土)～22 日(日)の日程で愛媛県県民文化会館(愛媛県松山市)にて開催されました。大会参加者は 130 名(現地参加 82 名)であり、発表は特別講演 1 題、特別セッション 3 題、一般講演 11 題、学生研究セッション 9 題、スタディグループセッション 3 題、ソフトウェア・デモセッション 3 題の合計 30 題の多くのご発表を賜りました。現地とオンラインでのハイブリット形式での開催となりましたが、盛会のうちに終えることができました。大会初日の特別講演では、「新型コロナウイルス対策や健康寿命の延伸といった県政の立案に統計学を活用した結果について」のご演題で、滋賀県感染症対策課 井上英耶氏にご講演いただきました。また、特別セッション「ロバストベイズ統計」を開催しました。ベイズ統計のエリアで活躍する新進気鋭な若手研究者の方々に講演いただき、先進的な話題が議論されました。懇親会は、感染対策を十分に行ったうえで、ふなや旅館にて開催させていただきました。愛媛県の美味しい郷土料理を 43 名の参加者の皆様にご堪能いただき、有意義な懇親のお時間を過ごしていただきました。本大会の開催にあたり、座長、講演をお引き受けいただいた方々、発表をいただいた方々、協賛をいただいた企業の方々、そして、ご参加いただきました皆様に、心よりお礼を申し上げます。

重ねて、ご支援いただきました愛媛県民文化会館の皆様と大会実行委員の先生方に深く感謝申し上げます。

学会賞受賞者より

学会賞を受賞された方よりコメントを頂きましたので、ご紹介いたします。

「学会賞」を受賞して

京都女子大学 栗原 考次

この度は、名誉ある日本計算機統計学会賞を授与していただき誠にありがとうございます。会長・副会長をはじめ、推薦、審査していただきました先生方、会員の皆様には心から御礼申し上げます。この賞は、計算機統計学の研究および普及に対する最高の学会賞として、私が学会賞委員長時代の2014年に創設した賞だけに嬉しさもひとしおです。

日本計算機統計学会は1986年10月4日に発足しましたが、私の研究者としての活動も、その頃から始まりましたので、正しく本学会とともに歩んで来た感があります。これまで、発足から10年間庶務会計理事、和文誌編集理事、副会長、会長などの運営業務に携わりましたが、記念事業には不思議と縁があり、5周年記念大会では事務局、15周年記念事業では和文誌記念特集号編集理事、会長時代には30周年記念事業などを担当させていただきました。こうした活動は和文誌「計算機統計学」の特集号において「日本計算機統計学会15年の歩み」や「学会設立30周年記念事業について」で紹介しております。本稿では、本学会会長及び統計関連学会連合理事長時代に関わったJapanese Journal of Statistics and Data Science (JJSD)及びデータサイエンスについて紹介したいと思います。

1. JJSD について

本学会の研究活動の中心は、2回の学術研究会の開催と学会誌の発行です。発足当時、学会員100名程度での和文誌、欧文誌の2誌の発行は周囲の驚きでしたが、執行部及び編集委員長の学会に対する情熱の一つの表れでした。和文誌は現在まで順調に発行を続けていますが、欧文誌は2016年に統計関連学会連合による欧文誌(JJSD)に発展的継承という大きな転機を迎えます。当時会長の私は関係者と幾度となく議論を重ね、11月開催の評議員会で正式に学会として参加することを決定しました。日本統計学会の岩崎会長(当時)に岡山のホテルラウンジで「日本計算機統計学会は本気ですよ」とお話し、互いに意思を確かめ合ったのを昨日のこと

のように思い出します。その後、2017年に欧文誌を発行していた日本統計学会でも正式に参加が決まり、欧文誌を発行していない他の4学会の承認を得て、JJSDは2018年6月に創刊号を発行することができました。出版社Springerとの契約は2017-2018年度に統計関連学会の理事長を担当していた私が行いましたので、非常に思い入れがあります。発足から編集委員長をされている青嶋先生のご尽力もあり、日本から統計学、データサイエンスの情報を発信する国際誌として歩み始めました。

2. データサイエンスについて

政府はAI戦略2019の中で、全ての国民の「数理・データサイエンス・AI」に関する基礎的なりテラシーの習得、専門分野で応用できる人材育成、データサイエンス・AIを駆使したイノベーションを創出、さらに、世界で活躍できる人材を育成する教育ピラミッド構築の必要性を述べています。こうした要望に応えるため、滋賀大学や横浜市立大学などで統計学やデータサイエンスに特化した人材育成が始まりました。京都女子大学でも、2023年4月に女子大学初のデータサイエンス学部の設置が認可され、現在その準備を進めています。本学部の特徴は、データサイエンスの3要素の情報学、統計学、価値創造(社会ソリューション)をバランス良く教育することにあります。特に、AI・計算機を利活用し分析する技能、分析方法の見方・考え方、分析結果の意味や解釈、結果の信頼性・安定性など統計関係の内容が充実しており、趣旨に賛同いただいた本学会の会員にも多数教員として参加いただいています。

最後に、本学会におかれましては、これまでの「計算機統計学の研究推進」「産官学の連携協力」「若手研究者の人材育成」などの基本方針を持ち、積極的かつ意欲的に活動を行う魅力的な学会であり続けることを期待しています。

「奨励賞」を受賞して

同志社大学 竹村 祐亮

この度は、奨励賞という名誉ある賞を賜りましたこと、大変光栄に存じます。今回、この賞を頂けたのも、共著者である栗原考次先生(京都女子大学)、石岡文生先生(岡山大学)より多大なるご助言ご指導を頂いた結果にほかなりません。ここに心からの感謝を申し上げます。また、選考に携わっていただきました委員の先生方をはじめ、学会員の皆様へ、この場をお借りして深く謝意を表します。

今回の受賞対象となった論文は、私が博士前期課程のころから進めてきた研究結果について計算機統計学34巻1号に採録いただいたものとなっております。本論文の執筆を始めた当初、日本国内では新型コロナウイルスによる感染者が増加し、緊急事態宣言が全国に拡大されるなど私たちの日常が大きく変化していました。私の大学でも入構禁止などの措置が行われ、思うように原稿執筆が進まない時期もございました。しかし、そのような状況の中、当時指導教員でもありました石岡先生とは慣れない環境の中で幾度にも渡って遠隔のゼミを行い、投稿するまでに至りました。

本論文で、我々は領域数が数千から数万におよぶ大規模空間データに対して空間集積性(クラスター)を検出するための新たな手法を提案いたしました。クラスターの検出方法として、これまで数多くの手法が提案されてきましたが、大規模空間データに対しては、クラスターの中に低リスクの地域が含まれてしまうことや計算コストの増加によって解析が困難になってしまうといった問題を抱えておりました。我々は、既存のクラスター検出法である echelon scan 法に対して制限付スキャン統計量の考えを取り入れることで、これらの問題の解決を図りました。結果として、提案手法では高リスクな地域のみを含むクラスターを検出することができ、計算コストも大幅に削減されるという知見を得ることができました。さらには、数値シミュレーションによって提案手法の検出精度が既存手法と同等以上であることも確認できました。近年では、位置情報端末の発達により収集される空間データの規模も大きくなっています。今回の提案手法は、こうした大規模空間データの解析に対して力を発揮すると考えております。

今回の受賞を励みに、微力ではございますが日本計算機統計学会の発展に貢献できるよう今まで以上に精進を重ね、研究を進めて参りたいと思います。この度は誠にありがとうございました。

「奨励賞」を受賞して

ベネッセ教育総合研究所 牧野 直道

この度は奨励賞という名誉ある賞を頂戴することができ、大変光栄に存じます。学会賞審査委員の先生方、ならびに学会員の皆さまに心より御礼申し上げます。今回の受賞につながった数量化法を用いたカテゴリカルデータの因子分析とその解の解釈容易性向上に関する研究は、大学時代からの指導教員であった大阪大学の足立浩平先生のご指導があつてこそ形にすることができた研究成果だと考えております。岡山理科大学の森裕一先生、黒田正博先生には今回の受賞

にも関連する研究を本として共同で執筆させていただくという大変貴重な機会をいただきました。この場をお借りしまして、3名の先生方に改めて御礼申し上げます。また、同じく足立研究室で研究をご一緒した皆さまの研究成果・アドバイスも、今回の研究をまとめる上では必要不可欠でした。紙面の都合上、各人のお名前をあげることができず大変恐縮ですが、足立研究室の皆さまにも厚く御礼申し上げます。

今回の受賞のご連絡を頂いたとき、驚くとともに、私よりも賞に相応しい先生方がいらっしゃるなか、私が受賞してよいかと大変恐縮してしまったというのが率直な感想でございました。しかし、今回の受賞は今後これまで以上に研究に励んで、奨励賞にふさわしい研究者になるようにという先生方からの叱咤激励であり、今後も歩みを止めることなく研究に邁進していくことが私にできる精一杯の恩返しだと現在は考えております。そのご恩に報いるためにも、カテゴリカルデータの多変量解析法の研究の発展に少しでも寄与できるよう、今後も努力していく所存です。また、まだまだ力不足、かつ微力ではございますが、少しでも日本計算機統計学会の発展に貢献していければと考えておりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒宜しく願います。

「奨励賞」を受賞して

和歌山県立医科大学 万 可

この度は、奨励賞を頂きまして誠に光栄に存じます。審査委員の皆様並びに関係者の皆様にご心からお礼を申し上げます。

今回受賞に上げさせていただきました二つの研究は、いずれもプロダクション・ルールを用いた統計手法に基づいて提案した手法です。これらの研究は博士課程から取り組んだ研究です。私がこれらの方法を研究のテーマにしたきっかけは修士課程の研究にあります。修士課程の研究では、中国での観光地における印象を来訪者にアンケート調査を行い、そのデータ解析にCART法を用いました。CART法における結果の解釈は、プロダクション・ルールに基づく非常に理解しやすいものでした。このことが発端となり、プロダクション・ルールに基づく統計手法を博士課程から研究を開始いたしました。現在は、和歌山県立医科大学において、医学系研究において広く応用されているHTE(Heterogeneous Treatment Effect)を推定するためのアンサンブル学習モデルの研究を行っています。そして、このときの基本学習器(base learner)としてプロダクション・ルールを用いる方法を開発しています。

最後になりますが、水田正弘先生(北海道大学)、南弘征先

生(北海道大学), 下川敏雄先生(和歌山県立医科大学), 谷岡健資先生(同志社大学)に深くお礼を申し上げます。そして、今回の受賞を励みとし、日本計算機統計学会の発展に貢献できるよう、日々精進していく所存でございます。

「貢献賞」を受賞して

あすか製薬株式会社 藤澤 正樹

この度は名誉ある賞を頂戴し、誠に感謝いたしております。2021年6月3日から6月4日にかけて、別府国際コンベンションセンター(大分県別府市)にて開催しました第35回大会にて、実行委員長を務めさせていただきました。お蔭様で185名のご参加をいただき、盛会にて幕を閉じることができました。ご参加ご講演いただいた皆様、座長の労をお引き受けいただいた皆様、実行委員会の皆様、多くの方々に支えられての大会開催になりましたことを改めて感謝申し上げます。

シンポジウムでは実行委員の皆様のお力添えをいただき、初めて現地とオンラインでのハイブリット形式で開催することができました。本シンポジウムが計算機統計学の発展に寄与し、本学会に少しでも恩返しできたことを大変に嬉しく思います。

2022年4月より産官学参画強化ワーキンググループとして活動することになりました。本ワーキンググループの活動を通じて、新たな企画の提案や魅力あるイベントづくりを心掛けたいと思います。最後になりましたが、貢献賞を授与いただいたことにあらためて感謝いたします。本当にありがとうございました。

フェロー認定者より

日本計算機統計学会フェローに1名の先生が認定されました。認定された方よりコメントを頂きましたのでご紹介いたします。

日本計算機統計学会フェローの称号をいただいて

大阪大学 足立 浩平

この度は、名誉あるフェローの称号を授与していただきまして、とても光栄に感じております。ご推薦いただいた方々、フェロー審査の関係者の皆様方、そして、これまでお世話になった会員の皆様方に、感謝いたしております。有り難うございました。そして、フェローとして、本学会の発展に一層の貢献ができるように努力する気持ちを、新たにしております。

私の記憶では、日本計算機統計学会への入会は、(フェロ

ーの先輩方より遅いと思われる)1998年です。翌1999年に兵庫大学経済情報学部で開催された大会で、本学会での初めての口頭発表を行いました。その後、本学会の大会・シンポジウムにて、できる限り口頭発表を行ってきました。ただし、本学会の副会長・会長在任時に数年のブランクがあります。

本学会での初めての論文公刊は、和文誌14巻2002年の総合報告であり、この論文の執筆の契機は、当時の和文誌編集理事の水田先生による投稿のお勧めでした。その次に、欧文誌の17巻(2004年)に公刊された論文に対して、光栄にも、本学会の論文賞を授与されました。この論文の改稿中に、当時の欧文誌編集理事の越智先生より、英文に関する貴重な御教示を受けたことを憶えております。その後、欧文誌の20巻(2007年)、25巻(2012年)、26巻(2013年)に論文を公刊できました。そして、和文誌編集理事であった桜井先生・山本(義郎)先生より因子分析の特集を企画するお話を頂戴して、32巻の1,2号(2019年)に自身の共著論文を含めた計4篇の総合報告論文からなる特集を公刊できました。

以上の研究発表とは別に、2011年に評議員に着任して以来、本学会の運営に参画させていただきました。その中でも主要な事の第1段は、2013年~2016年の欧文誌編集理事でした。この期間の後半に、統計関連学会連合の新ジャーナルJJSDを本学会の欧文誌にするという変革があり、戸惑いながらも、対応いたしました。そして、次に、2015年~2018年に副会長を務め、その期間中、栗原会長時代に30周年記念事業に参画、大石会長時代に若手セミナーの始動を経験しました。そして、2019年~2020年に会長を務めました。その任期中、特に、運營業務を具体化していただいた庶務理事の先生方、後半1年の新型コロナ禍に対応すべく大会オンライン開催に尽力していただいた副会長の先生方に支えられました。

前段の期間中に、イグ・ノーベル賞受賞による統計界への貢献により、光栄にも、本学会の2016年度の貢献賞を授与されました。イグ・ノーベル賞の主役は、あくまで、著名な実験心理学者の東山篤規先生であり、私は東山先生の視覚実験データの統計解析のお手伝いをして、対象論文の共著者となった次第です。なお、同年度2016年の京都における本学会第30回大会の実行委員長を務めたことは、たしかに貢献できたかと思っております。この大会は30周年記念と冠せられ、IASC会長だったオランダのGroenen先生を特別講演に招き、海外での京都人気のためホテル料金が高騰する中、おかげ様にて、多くの会員の皆様にご参加いただけました。大会の後に、京都では、新たなホテルが急増して料金高騰

は無くなったと思いきや、新型コロナ禍がまいました。

さて、この 10 年、行列分解による因子分析へのアプローチに関わってきましたが、その出発点が本学会の欧文誌 25 巻 (2012 年) に公開された論文であり、最近になって、そのアプローチから、因子・主成分分析の諸方法の階層関係が垣間見えてきました。今後、フェローとして、その成果等をできる限り、本学会で発表していきたいと存じます。また、現在、将来計画理事を拝命しておりますが、将来に向けた本学会の発展のため、機械学習の興隆やデータサイエンスの普及などの動向を踏まえながら、フェローとして努力していく所存ですので、引き続き、御指導を賜れますよう、どうかよろしくお願ひ申し上げます。

学生研究発表賞受賞者より

第 36 回大会で学生研究発表賞を受賞された方よりコメントを頂きましたので、ご紹介いたします。

「学生研究発表賞」を受賞して

東京大学大学院経済学研究科 若山 智哉

この度はコンペティションセッションにおいて学生研究発表賞を頂き、大変光栄に存じます。企画および運営をされた関係者の皆様に深く御礼申し上げます。また、審査いただきました先生方や熱いコメントをくださいました先生方、平素より熱心にご指導いただいた菅澤翔之助先生に心より感謝申し上げます。

本発表では「関数データに対するトレンドフィルタリング」という演題で発表させていただきました。この研究は高次元の時系列データを関数の時系列データとみなした際に、変化点を明確に検出しながらもトレンドを推定することが目的で、LASSO のアイデアを応用しつつ罰則付き最小二乗法を構成することで達成できました。さらに空間データにも拡張し、より広範な活用が可能になりました。実データを用いたシミュレーションでも、どの時点・地点で変化が起きているのかということを中心に多くの洞察が得られることを示しました。今後の課題としては、ベイズ的手法の考案や計算量などの理論的な性質の考察が挙げられます。

今回の受賞は自身の研究活動への大きな励みになりました。今後とも有意義な研究ができるよう、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願ひ申し上げます。

「学生研究発表賞」を受賞して

同志社大学大学院文化情報学研究科 東海林 岳寛

この度は、日本計算機統計学会第 36 回大会において、学生研究発表賞という名誉ある賞を頂戴し、大変光栄に思います。審査をしてくださいました学会審査委員の皆様、本大会の運営に携わって下さった先生方に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。また、日頃より熱心にご指導して頂いている同志社大学文化情報学部の宿久洋先生、土田潤先生、竹村祐亮先生をはじめ、統計科学研究室の皆様に深く感謝を申し上げます。

本発表では「分位点回帰で重みをつけた Outcome Adaptive Lasso について」と題して、傾向スコアを用いて、分位点処置効果を推定する際、傾向スコアモデルに含めるべき共変量の検証及び、共変量選択法の提案をしました。本発表では、分位点処置効果を推定する際に、傾向スコアモデルに含めるべき共変量について、十分に議論がなされていない点に着目しました。そこで、数値実験によって、平均処置効果を推定する際と同様に結果変数に関連のある変数を傾向スコアモデルに含めると良いことを確認いたしました。これに加えて、既存の傾向スコアモデルの共変量選択法である Outcome Adaptive Lasso の正則化項の重みとして、分位点回帰モデルを想定した結果回帰モデルの偏回帰係数を用いる手法を提案しました。これにより、結果の分位点に関連する共変量を選択することが可能となり、結果回帰モデルの分散が不均一な状況において、既存法と比較して良い性能を持つことを数値実験により確認いたしました。

コロナ禍ではありましたが、感染対策を徹底し現地にて発表する機会を設けていただくことで、計算機統計学会の素晴らしい肌で体感することができました。すべての関係者の皆様方に重ねて御礼申し上げます。今回の受賞を励みとして、より一層精進してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひ申し上げます。

IASC-ARS2022 の報告

IASC-ARS2022 実行委員長 岡山理科大学 森 裕一
実行委員会事務局長 同志社大学 宿久 洋
プログラム委員長 岡山大学 坂本 亘

第 11 回 IASC アジア地域会議 (The 11th Conference of the Asian Regional Section of the International Association for Statistical Computing, IASC-ARS2022) を 2 月 21 日から 24 日まで、同志社大学今出川キャンパスとオンラインのハイブリッド形式で開催しました。会議のテーマは、「Data Science Everywhere: Innovations in Statistical Computing」で、あらゆる

ところでデータサイエンスが活用・重要視される中で、統計計算の価値や新たな潮流を議論することを目的としました。

プログラム構成は、21日がJoe Suzuki先生によるチュートリアル、22日の午前は開会式に続き、Kengo Kamatani先生によるKeynote Talk、午後は発表セッション、23日の午前はRyan Tibshirani先生のKeynote Talkと発表セッション、午後は発表セッション、24日の午前はRay-Bing Chen先生のKeynote Talkと発表セッション、午後は発表セッションの後、IASC-ARSの総会、そして閉会式という構成でした。企業展示としては、毎日の午後の休憩時間に、(株)NTTデータ数理システム様によるデモ動画が流され、参加者への情報提供が行われました。

本会議の最終的な参加人数は、日本から124名、海外から77名の計201名、うちオンライン参加が158名でした。18の国と地域から参加があり、主な国・地域別参加者数は、日本124名、台湾29名、韓国9名、香港3名、中国6名、シンガポール5名、オーストラリア1名、ニュージーランド3名、ドイツ2名、アメリカ8名です。アジア地域の交流のみならず、それ以外の地域からの参加もあり、国際色豊かな会議となりました。

発表件数は、Keynote Talkが3講演、Invited Sessionが19セッション75発表(当日キャンセルが1件あったので実際は74件)、Contributed Oral Sessionが10セッション41発表、e-Poster Sessionが2セッション22発表でした。実発表総数140件と、広範な分野での活発な議論が行われました。

今回、若手研究者を奨励することを目的に、一般セッション(Oral, e-Poster)で発表する30歳以下(2022年1月1日時点)の研究者・学生を対象にOutstanding Young Researcher/Student Awardを設けました。審査の結果、Oral, e-Posterそれぞれで、1st Prize 1名ずつ、2nd Prize 2名ずつを選出・表彰しました。

実施にあたっては、すべてのセッションをオンラインで配信しました。特に、e-Posterセッションでは、Gather Townを利用したオンラインのポスターセッション会場を設定し、バーチャルな会場を自由に回って質疑を行えるようにしました。それ以外の各種セレモニーやセッションはZoomによる環境を提供しました。参加者はオンラインによる議論にも慣れており、また、オンラインだからこそ実現が可能となったセッションもあり、オンラインの特徴を十分に活用した会議が実現できました。

本会議の開催にあたって、日本計算機統計学会の皆様には大変お世話になりました。計算機統計の日本代表学会とし

て、3年以上前から、人的なサポート等をお願いし、実際の運営や招待セッションの企画、発表申込等、多くのご支援をいただきました。ここに感謝申し上げます。

次回の第12回大会は、2023年の12月にオーストラリアのシドニーで開催されることや2022年の12月には中間会議も行われることが決まり、新型コロナウイルス禍でありながら、計算機統計に関する学術的な交流と人的な交流が活発に行え、アジア・オセアニア地区のより一層の発展が期待される有意義な会合となりました。

会議の運営に関係いただいた方々、会場を提供いただいた同志社大学様、ご支援をいただいた各団体様、実行委員、プログラム委員、アドバイザー、会場スタッフ、そして、発表いただいたみなさんに、心よりお礼申し上げます。

学会からのお知らせ

日本計算機統計学会 2022 年度 第1回 理事会議事録

■日時:2022年4月16日(土) 15:00~17:00

■場所:同志社大学東京サテライト・キャンパス会議室 及び Zoomのハイブリッド開催

■出席者(敬称略、会長・副会長以外は五十音順):

小木しのぶ(会長:議長)、

山本義郎、宿久洋、渡辺敏彦(副会長)、

足立浩平、阿部貴行、飯塚誠也、石岡文生、大石雅彦、

大草孝介、大槻成章、岡田謙介、小田牧子、川崎玉恵、

栗原考次、小泉和之、酒折文武、坂本 亘、桜井裕仁、

下川敏雄、杉本知之、竹内光悦、土田 潤、富田 誠、

橋口博樹、弘新太郎、兵頭 昌、藤澤正樹、丸尾和司、

村上秀俊、森 裕一、山田隆行、山本紘司、山本由和

■委任状提出:

河合統介、栗林和彦、水田正弘、藤野友和、星野崇宏

●定足数の確認等

理事会定足数 26名(3分の2以上の出席)に対し、出席者と委任状提出者数の合計が定足数を上回っていることが確認された。

●報告事項(2020年度分)

◆1. 2021年度事業報告・業務報告について

大草 庶務理事より、2021年度事業報告・業務報告について、説明が行われた。

◆2. 2021年度決算報告について

石岡 会計理事より、2021年度決算報告について、説明が行われた。

◆3. 2021 年度監査報告について

大草 庶務理事より、2022 年 3 月 17 日に行われた 2021 年度監査について、報告が行われた。

●審議事項**◆1. 会員の異動について**

大草 庶務理事より、会員の異動について報告があり、原案の通り承認された。

◆2. 2022 年度事業計画(案)について

大草 庶務理事より、2022 年度事業計画(案)について説明があり、審議の結果、原案通り承認され、評議員会に上程することとなった。

◆3. 2022 年度予算(案)について

土田 会計理事より、2022 年度予算(案)について、例年との相違点を中心に説明がなされた。審議の結果、原案通り承認され、評議員会に上程することとなった。

◆4. 第 37 回(2023 年度)大会について

小木 会長より、第 37 回大会を、2023 年に中村永友実行委員長(札幌学院大学)により北海道の帯広で開催する旨の提案があり、審議の結果、原案通り承認された。

中村先生の企画理事への就任について承認され、評議員会に上程することとなった。

◆5. フェローの認定について

山本 副会長(フェロー審査委員会委員長)より、フェロー候補者の紹介がなされ、審議の結果、次の 1 名にフェローの称号を授与することを認定した。

足立 浩平 氏(大阪大学)

◆6. 会員区分の見直しについて

阿部 庶務理事より、法人会員の設定について報告がなされ、会則および Web サイトの記載項目についての訂正案が出された。法人会員になれる組織など不明瞭な点があることから、執行部で内容を議論し、再度審議にかけることとなった。

◆7. デジタル化 WG の設置

小木 会長よりデジタル化 WG の設置について提案が行われ、審議の結果承認された。

◆8. 企業参画 WG の設置

小木 会長より企業参画 WG の設置について提案が行われ、審議の結果承認された。

◆9. その他

特になし。

●報告事項**◆1. 和文誌について**

富田 和文誌編集理事より、和文誌の編集状況について以下の通り報告がなされた。

・投稿規定、執筆要項の改訂について、十分な周知ができていなかったため、ニューズレター No.75 に新旧対応表を掲載することとなった。

・雑誌の発行状況について、第 34 巻 2 号(2022 年 5 月)、第 35 巻 1 号(2022 年 7 月)、第 35 巻 2 号(2022 年 10 月)をそれぞれ発行予定であり、遅延を解消予定である。第 34 巻 2 号には原著論文 1 件、ソフトウェア記事 1 件、第 35 回大会報告を掲載予定で総合報告も採択が揃い収録予定である。

・特集「複雑データ解析」の論文投稿を受付中である。なお、昨年 12 月締切の特集「災害関連データ解析」には 1 編の投稿があった。

・論文投稿・査読状況について、採択が 3 編、査読中・修正中が 18 編、不採択・取り下げが 1 編となっている。引き続き積極的な投稿をお願いしたい。

◆2. 欧文誌について

橋口 欧文誌編集理事より、JSD の編集状況などについて、順調に投稿が行われており、Vol. 5 Issue 1, 2 が予定通りに発行予定である旨報告がなされた。現在の論文発行数や投稿状況などが報告された。

◆3. 広報活動について

飯塚 広報理事より、広報活動について報告がなされた。広報活動は例年通り実施されており、昨年末にかねてよりの課題であった SSL 対応および CMS の移行も完了した。現在執行部からの要請により英語対応を検討しており、内容について検討中である。また毎年更新が必要となる SSL 証明書更新費用を予算に計上している。

◆4. 渉外活動について

竹内 渉外理事より、渉外活動について報告が行われた。

◆5. 第 36 回大会・第 36 回総会について

兵頭 企画(大会担当)理事(同大会実行委員長)より、第 36 回大会の準備状況が説明された。

◆6. 第 36 回シンポジウムについて

山本 副会長兼企画(大会担当)理事(同シンポジウム実行委員長)より、第 36 回シンポジウムの準備状況が説明された。

◆7. 2022 年度 計算機統計セミナーについて

藤澤 企画理事より、2022 年度の計算機統計セミナーの開催計画の説明がなされた。

◆8. 2022 年度若手セミナーについて

杉本若手奨励理事より、2022 年 9 月に開催される若手セ

ナーについて、準備状況の説明が行われた。

◆9. 2022 年度統計関連学会連合大会について

小木 会長より、2022 年度連合大会の開催日程等について説明が行われた。併せて、本会選出のプログラム委員会を中心に企画セッションを申し込んだ旨の報告が行われた。

◆10. IASC-ARS2022 開催報告

森 IASC-ARS2022 実行委員長より同大会の開催報告が行われた。

◆11. 賛助会員への JJSD 冊子郵送について

阿部庶務理事より、賛助会員への JJSD 冊子郵送のアクセスコードへの切り替えについて説明が行われた。

◆12. 会長・副会長・評議員選挙について

大草庶務理事より、会長・副会長・評議員選挙の準備状況について報告がなされた。

◆13. 2021 年度学会賞について

山本副会長(学会賞審査委員会委員長)より、2021 年度学会賞について賞委員会で検討中であり評議員会までに確定する旨、報告が行われた。

◆14. その他

特になし。

日本計算機統計学会 第86回(2022年度, 第1回)評議員会議事録

■議長:小木しのぶ(会長, 株式会社NTT データ数理システム)

■日時:5月20日(金) 15:30~17:30

■場所:愛媛県県民文化会館 と Zoom でのハイブリッドによる開催

■出席者(敬称略, 会長・副会長以外は五十音順):

小木しのぶ(会長:議長),

山本義郎, 宿久 洋, 渡辺敏彦(副会長),

足立浩平, 阿部貴行, 飯塚誠也, 石岡文生, 石橋雄一,

五十川直樹, 大石雅彦, 大草孝介, 岡田謙介, 鎌倉稔成,

河合統介, 栗原考次, 坂本 亘, 佐藤耕一, 塩谷順彦,

篠津和夫, 下川敏雄, 瀬尾 隆, 田澤 司, 月田あづさ,

道家暎幸, 富田 誠, 永久保太士, 藤澤正樹, 丸尾和司,

山縣清壮

■委任状提出(何れも議長へ委任)

久保田貴文, 竹内光悦, 中川重和, 橋口博樹, 藤野友和,

米山昭成

■陪席理事(事前参加登録があり, かつ評議員と重複していない)

大槻成章, 小田牧子, 桜井裕仁

●定足数の確認

評議員会定足数 18 名(会長・副会長も含む, 半分以上の出席)に対し, 出席者と委任状提出者数の合計が定足数を上回っていることが確認された。

●審議事項(2021 年度分)

◆1. 2021 年度事業報告・業務報告について

大草 庶務理事より報告がなされ, 審議の結果承認された。

◆2. 2021 年度決算報告について

石岡 会計理事より報告がなされ, 審議の結果承認された。

◆3. 2021 年度理事の業務監査および会計監査報告について

清見 監事より報告がなされ, 審議の結果承認された。

●報告事項

◆1. 2022 年度第1回理事会について

大草 庶務理事より2022 年度第1回理事会について報告がなされた。

◆2. 会員の異動について

大草 庶務理事より会員の異動状況について報告がなされた。

◆3. 和文誌について

富田 和文誌編集理事より和文誌の編集状況について報告がなされた。

◆4. 欧文誌・JJSD について

宿久 欧文誌編集理事より JJSD の編集状況について報告がなされた。

◆5. 広報活動について

飯塚 広報理事より広報活動の状況について報告がなされた。

◆6. 渉外活動について

大槻 渉外理事より渉外活動の状況について報告がなされた。

◆7. 第36回シンポジウムについて

山本 第36回シンポジウム実行委員長より2022年11月26日~27日に富山国際会議場で開催予定のシンポジウム準備状況について報告がなされた。

◆8. 2022 年度 計算機統計セミナーについて

藤澤 企画理事より2022 年度計算機統計セミナーの準備状況について報告がなされた。

◆9. 若手セミナーについて

丸尾 若手奨励理事より2022年9月2日~3日に国際医療福祉大学小田原キャンパスで開催予定の2022 年度若手セミ

ナーの準備状況について報告がなされた。

◆10. 2021 年度学会賞について

山本 賞委員会委員長より 2021 年度学会賞について報告がなされた。受賞者は以下の通り(所属は 2021 年度当時)。

———
[日本計算機統計学会賞] 栗原考次氏(岡山大学)

[貢献賞] 藤澤正樹氏(あすか製薬株式会社)

[奨励賞] 竹村祐亮氏(岡山大学)

牧野直道氏(ベネッセ教育総合研究所)

万可氏(和歌山県立医科大学)

◆11. フェロウの認定について

山本 フェロウ認定委員会委員長より 2022 年度のフェロウ認定者について報告がなされた。認定者は以下の通り。

———
足立浩平氏(大阪大学)

◆11. IASC-ARS2022 開催報告

森 IASC-ARS2022 実行委員長より IASC-ARS2022 の実施報告が行われた。

◆12. 賛助会員への JJSD 冊子郵送について

阿部 庶務理事より賛助会員への JJSD 冊子郵送と代替措置としてのアクセスコード発行について報告が行われた。

◆13. 統計関連学会連合理事会からの報告ならびに 2022 年度統計関連学会連合大会について

小木 会長より 2022 年 9 月 4 日(日)~8 日(木)に開催される統計関連学会連合大会の準備について報告がなされた。

本学会選出の企画セッションを、本会選出プログラム委員の中村先生と兵頭先生で検討中である旨報告がなされた。

◆13. その他

特になし

●審議事項

◆1. 会費長期未納会員への対応について

大草 庶務理事より報告がなされ、審議の結果承認された。

◆2. 2022 年度事業計画(案)について

大草 庶務理事より 2022 年度事業計画(案)について報告がなされ、審議の結果承認された。

◆3. スタディー・グループについて

大草 庶務理事よりスタディー・グループについて報告がなされ、審議の結果承認された。今年度は継続の 1 件となる。

◆4. 2022 年度予算(案)について

土田 会計理事より 2022 年度予算(案)について報告がなさ

れ、審議の結果承認された。

◆5. 第 37 回(2023 年度)大会・第 37 回総会について

小木 会長より第 37 回(2023 年度)大会・第 37 回総会について中村永友氏(札幌学院大学)を実行委員長とし、2023 年 6 月に開催予定である旨報告がなされた。

中村永友氏(第 37 回大会実行委員長)を大会担当の企画理事とすることについて承認された。

◆6. 会員区分の見直しについて

阿部 庶務理事より会員区分の見直しについて報告がなされ、審議の結果団体会員枠の設置について承認された。

◆7. デジタル化WGの設置について

小木会長よりデジタル化WGの設置について報告がなされ、審議の結果承認された。

◆8. 産官学参画WGの設置について

小木会長より産官学参画WGの設置について報告がなされ、審議の結果承認された。

◆9. 会長・副会長選挙:候補者の推薦について

大草 庶務理事より今年度実施される会長・副会長選挙について、候補者の推薦状況について報告がなされ、審議の結果承認された。

◆10. 第 36 回総会について

大草 庶務理事より第 36 回総会の議事内容について報告がなされ、審議の結果承認された。

◆11. その他

特になし。

●連絡事項

◆1. 第 36 回大会について

兵頭 第 36 回大会実行委員長より第 36 回大会の注意点などについて報告がなされた。

◆2. その他

特になし。

日本計算機統計学会 第 36 回総会議事録

■日時:5 月 21 日(土) 16:30~17:30

■場所:愛媛県県民文化会館 と Zoom でのハイブリッドによる開催

●議長選出

中央大学の鎌倉稔成氏が議長として選出された。

●会長挨拶

小木 会長より総会開催にあたり挨拶が行われた。

●議事

◆1. 2021 年度事業報告

宿久 副会長より 2021 年度事業報告について報告が行われた。

◆2. 2021 年度決算報告

石岡 会計理事より 2021 年度決算報告について報告が行われた。

◆3. 2021 年度理事の業務監査および会計監査報告

南 監事より 2021 年度理事の業務監査および会計監査報告について報告が行われた。事業報告および決算報告について、審議の結果承認された。

◆4. 理事会・評議員会報告

小木 会長より理事会は 2022/4/16, ネット理事会は 2021/10/30, 評議員会は第 85 回を 2021/11/26, 第 86 回を 2022/5/20 にそれぞれ開催された旨、報告がなされた。

◆5. 2022 年度事業計画(理事の承認を含む)

宿久 副会長から 2022 年度事業計画について承認がなされた。関連して、中村永友氏(第 37 回大会実行委員長)を大会担当の企画理事とすることについて承認された。

◆6. 2022 年度予算

土田 会計理事より 2022 年度予算案について報告が行われ、審議の結果承認された。

◆7. 2023 年度(第 37 回)総会の開催地の決定

宿久 副会長より第 37 回総会を 2022 年 6 月上旬に北海道帯広市で開催予定の日本計算機統計学会第 37 回大会中に実施予定である旨報告がなされ、審議の結果承認された。

◆8. 会員区分の見直しについて

阿部 庶務理事より会員区分の見直しについて報告がなされ、審議の結果団体会員枠の設置について承認された。

◆9. その他報告事項

(1) 和文誌編集委員会報告

富田 和文誌編集理事より和文誌の編集状況について報告がなされた。

(2) 欧文誌(JJSD)報告

橋口 欧文誌編集理事より JJSD の編集状況について報告がなされた。

(3) 広報委員会報告

飯塚 広報理事より広報活動の状況について報告がなされた。

(4) 渉外活動報告

大槻 渉外理事より渉外活動の状況について報告がなされた。

(5) スタディー・グループについて

大草 庶務理事よりスタディー・グループについて報告がな

された。

(6) 第 36 回シンポジウムについて

山本 第 36 回シンポジウム実行委員長より 2022 年 11 月 26 日～27 日に富山国際会議場で開催予定のシンポジウム準備状況について報告がなされた。

(7) 2022 年度 計算機統計セミナーについて

藤澤 企画理事より 2022 年度計算機統計セミナーの準備状況について報告がなされた。

(8) 若手セミナーについて

丸尾 若手奨励理事より 2022 年 9 月 2 日～3 日に国際医療福祉大学小田原キャンパスで開催予定の 2022 年度若手セミナーの準備状況について報告がなされた。

(9) 学会賞審査委員会報告

山本 賞委員会委員長より 2021 年度学会賞について報告がなされた。受賞者は以下の通り(所属は 2021 年度当時)。

——

[日本計算機統計学会賞] 栗原考次氏(岡山大学)

[貢献賞] 藤澤正樹氏(あすか製薬株式会社)

[奨励賞] 竹村祐亮氏(岡山大学)

牧野直道氏(ベネッセ教育総合研究所)

万可氏(和歌山県立医科大学)

——

(10) フェロー審査委員会報告

山本 フェロー認定委員会委員長より 2022 年度のフェロー認定者について報告がなされた。認定者は以下の通り。

——

足立浩平氏(大阪大学)

——

(11) その他

特になし

新入会員(敬称略, 申請日順)

【正会員】

【学生会員】

◆2022年度計算機統計セミナー開催のお知らせ

以下のような計画で実施する予定です。

- ・第2回「Rによる探索的ビッグデータ解析と再現可能研究
-前処理, データラングリング, 探索的データ解析, 動的文書生成-

主催: 日本計算機統計学会

日時: 2022年11月13日(日) 13:00 ~ 16:00

実施形態: Zoom(Web 会議システム)を利用した実施

講師: 地道 正行先生(関西学院大学)

詳細: 本セミナーでは、規模の大きなデータ(ビッグデータ)として、ビューロー・ヴァン・ダイク社のデータベース Osiris(上場企業), Orbis(上場・非上場企業)から抽出された「財務(諸表)データ」を取り上げ、データの前処理から始まりラングリング, 探索的データ解析について具体的に紹介する。

現会員数(2022年4月5日現在)

正会員数(国内・海外)	493
学生会員	53
賛助会員	23
合計	569

学会・研究会のお知らせ

【開催予定一覧】

【国内】

・日本計算機統計学会 第36回シンポジウム

会場: 富山国際会議場(富山県富山市)+オンライン(ハイブリッド開催)

日程: 2022年11月26日(土) ~ 27日(日)

<http://jscs.jp/conf/sympo36/>

【国外】

・The 15th International Conference of the ERCIM WG on Computational and Methodological Statistics (CMStatistics 2022)

会場: King's College London, UK + online (hybrid)

日程: 2022年12月17日(土) ~ 19日(月)

<http://www.cmstatistics.org/CMStatistics2022/>

・64th ISI World Statistics Congress 2023

会場: Shaw Centre, Canada

日程: 2023年7月16日(日) ~ 20日(木)

<https://www.isi2023.org/>

広報委員会からのお知らせ

◆ニュースレターでの広告掲載について

本ニュースレターでは広告の掲載を募集しております。広告掲載をご希望の会員は、渉外理事(shougai@jscs.or.jp)までお問い合わせください。なお、ニュースレター以外の媒体(和文誌および計算機統計セミナー関連)の広告掲載に関するお申込・お問い合わせも、上記のe-mail アドレスにて随時受け付けています。

また、学会ウェブページ上(<https://www.jscs.or.jp/>)において、バナー広告による広告掲載を行っております。こちらにつきましても渉外理事までお問い合わせください。なお、大会およびシンポジウムについては各大会の事務局へお申し込みください。

事務局からのお知らせ

◆会費納入のお願い

会費のお支払いは、下記の口座への振り込みのほか、クレジットカード払いも可能です。詳細は会費振込用紙と一緒に送付した「会費納入のお願い」をご覧ください。会費の納入が滞ると学会運営に大きく影響しますので、忘れずに納入していただきますようお願いいたします。

なお、複数年にわたって滞納されますと、評議員会の議を経て除名されることがありますので、ご注意ください。

【口座名義両方とも】日本計算機統計学会

《ゆうちょ銀行》口座番号:00180-0-537374

《銀行》三菱UFJ銀行 青山支店

普通口座: 5284324

◆高齢者会員の会費割引について

本会では、主として退職された会員を対象に会費割引の制度を設けています。

(1) 60歳の誕生日を過ぎていること

(2) 会誌(和文誌・欧文誌)の配布を希望しないこと

の両方を満たす場合、お申出により会費が割引(7,000円→2,000円)となります。会費割引には評議員会での承認が必要となりますので、ご希望の会員はお早めに事務局にお申出ください。

◆2022年度の新入会員の特典について

2022年度に学生会員または賛助会員として新規に入会された新入会員は、入会特典を受けることができます。統計科学に関する研究を行っている学生の方がお近くにいらっしゃいましたら、ぜひこの機会に入会をお誘いください。

また、学会では賛助会員のために様々な形で計算機統計学に関する情報の提供・交換の場を設けています。会員の皆様には、統計科学とその周辺領域、コンピュータなどに関係のある企業・団体をお誘い、あるいはご紹介くださいますようお願いいたします。

入会特典の詳細につきましては、学会ウェブページの

<https://jcs.jp/入会のお誘い/新入会員特典>

をご覧ください。

◆会員情報の変更について

所属変更等をされた会員の方は、お手数とは存じますが、学会への変更の届出を忘れずにお願いします。届出を忘れると郵便などによる学会からの連絡が届かなくなってしまう。学生会員の方で今年就職をされた方は、今年度から正会員となりますので、必ず新しい所属・連絡先をお知らせください。

会員情報に変更のある会員の方は、学会事務局(office@jcs.or.jp)宛に電子メールで変更点をお知らせください。

ご理解、ご協力をいただけますよう、お願い致します。

◆休会制度、種別変更猶予制度について

本会では、休会制度および種別変更猶予制度を設けています。

「休会制度」は、会員に特段の事情が認められる場合、理事会の承認を経た上で、会員資格の停止とともに、会費を徴収しないことができることとした制度です。

「種別変更猶予制度」は、学生会員が学生としての身分を失い正会員に移行する際に、経済的事由などにより正会員として学会に所属することが著しく困難であると理事会で認められた場合、引き続き「学生会員」として所属できることとした制度です。

本制度は、年度単位で適用されます。希望される会員は、事務局までご照会ください。なお、本制度に関わる申し合わせは、

<https://jcs.jp/face/rules/kyukai.html>

からご覧いただけます。

広報委員会

(五十音順、*印は理事、+印は今号編集担当)

飯塚 誠也*(岡山大学)
石岡 文生(岡山大学)
大草 孝介(中央大学)
川崎 玉恵*(青山学院大学)
黒沢 健+(東京理科大学)
小泉 和之*(順天堂大学)
坂本 亘(岡山大学)
下川 朝有+(東京理科大学)
姫野 哲人+(滋賀大学)
弘 新太郎*(ファイザー(株))
藤野 友和*(福岡女子大学)
丸尾 和司(筑波大学)
山田 実俊(東海大学)
山本 由和(徳島文理大学)
山本 義郎(東海大学)

	日本計算機統計学会への入会のお誘い	
--	-------------------	--

日本計算機統計学会事務局

日本計算機統計学会では、随時新入会者を募集しております。会員の皆様の近隣で計算機統計学に興味のある方がいらっしゃいましたら是非入会をお勧めください。個人会員、賛助会員ともに入会いただくと、さまざまな特典があります。

2022年度の入会特典について

【対象期間】

2022年度（2022年1月1日～12月31日）

【対象者】

対象期間内に新規に学生会員または賛助会員として入会申込を行い、入会金・初年度年会費を納入した新入会員（入会金・初年度年会費の納入が確認された時点で特典の権利が発生します）

※賛助会員には入会金はありません。

<学生会員になられる方への特典>

本会の大会またはシンポジウムに、1回に限り無料で参加することができます！

<賛助会員になられる企業・団体への特典>

学会発行の論文誌、講演報告集、ニューズレターなどに企業広告を廉価で載せることができます！

入会特典についての詳しい内容は学会ウェブページをご覧ください。

<https://jscs.jp/入会のお誘い/新入会員特典/>

<お問合せ・連絡先>

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル 5F
(公財)統計情報研究開発センター内 日本計算機統計学会事務局
TEL:03-3234-7580 (平日 9:30～17:00)
FAX:03-3234-7580
E-mail: office@jscs.or.jp
URL: <https://www.jscs.jp/>